

## 施策評価調書(26年度実績)

施策コード Ⅲ-4-(1)

政策体系	施策名	広域交通網の整備推進	所管部局名	土木建築部、企画振興部	長期総合計画頁	135
	政策名	交通ネットワークの充実と地域交通対策の推進	関係部局名	土木建築部、企画振興部		

### 【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	広域交通網の形成	鉄道の利便性・快適性の向上	大分空港の利便性の向上	本州・四国と本県を結ぶフェリー航路の利用促進

### 【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		26年度			27年度	目標達成度(%)												
		年度	基準値	目標値	実績	達成度	目標値	25	50	75	100	125								
i	大分市中心部まで概ね60分で到達できる地域(面積)の割合(%)	①	H16	57	70	69	98.6%	70												
ii	高速道路ICに概ね30分で到達できる地域(面積)の割合(%)	①	H16	58	84	83	98.8%	84												
iii	大分空港の利用者数(万人/年)	③	H16	187	145	177	122.1%	150												
iv	フェリー航路の利用台数(万台/年)	④	H16	102.2	85	75.7	89.1%	85												

### 【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i	概ね達成	東九州自動車道(佐伯～蒲江)ならびに中九州横断道路(大野～朝地)の開通をはじめとした広域交通網の整備促進が図られたため、概ね目標を達成した。	概ね達成
ii	概ね達成	中九州横断道路(大野～朝地)の開通により、竹田市を中心として高速道路ICへのアクセス向上が図られたため、概ね目標を達成した。	
iii	達成	平成26年9月24日のティーウェイ航空ソウル線および10月9日のジェットスター・ジャパン関西線の新規就航により利便性が向上したことに加え、航空会社等と連携した本県の魅力・情報発信の強化により、平成26年度の利用者数は177万人となった。	
iv	達成不十分	平成26年4月の韓国での旅客船沈没事故の影響や、例年利用客が多くなるお盆休みや週末・祝日に台風の接近や上陸による欠航などが重なり、利用台数が減少したため、達成不十分となった。	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・一般県道宇佐インター線(下拝田工区)等のアクセス道路の現道拡幅などにより、高速ICへのアクセス強化とともに、交通安全対策が図られている。
②	・連続立体交差事業に伴うJR大分駅の全線高架化とともに、南北自由通路化など機能面が向上した。
③	・大分空港の運用時間の延長により、平成27年3月末から羽田発大分行き最終便の出発時間が従来より40分遅くなり、県民の東京でのビジネス・観光等にゆとりが生まれ、大分空港の利便性が向上した。
④	・フェリー航路利用促進事業費補助金を活用し、就航先地域での「おんせん県おおいた」のPR活動等を行ったことにより一定の成果はあったものの、悪天候による欠航の影響や旅客船沈没事故の影響によるキャンセルなどにより利用台数が減少した。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(26年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	27年度の方向性	
①	(公)道路改良事業	17,769,600	-	継続・見直し	190
	港湾整備事業	2,453,486	A	継続・見直し	191
	街路事業	4,538,105	A	継続・見直し	192
③	大分空港活性化事業	10,500	A	継続・見直し	25
	国際航空路線開設・定着化促進事業	57,802	B	継続・見直し	26
	国内航空路線拡充・定着化促進事業	31,281	A	継続・見直し	27
④	フェリー航路利用促進事業	33,811	B	継続・見直し	28

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○東九州自動車道建設促進協議会による本省要望(H26.11)</p> <p>・東九州自動車道は生活の道、活力の道、そして命の道としての役割が期待される高規格幹線道路であり、その全線開通は東九州地域900万人を超える沿線住民にとって悲願であることから、一日も早い全線開通を目指し、東九州軸推進機構と共催で開かれる1000人規模の地方大会を鹿児島県志布志市で開催、秋には東京で中央大会を開き、関係機関への要望を行った。</p> <p>○大分経済界等による中九州横断道路の要望(H27.2)</p> <p>・中九州横断道路は大分市から熊本市に至る約120kmの地域高規格道路であり、九州の一体的な発展を図るために必要不可欠な道路であることから、大分県経済5団体と女性の会が国土交通省、財務省、国会議員に対し、早期整備を要望した。</p>	<p>○東九州自動車道の開通後の新たな展開研究会</p> <p>・本県が九州の発展に貢献すべく九州の東の玄関口としての拠点となるには、どのような取組が必要かを議論するため、H26.7に設置の「人の流れ」「物の流れ」「国レベルの構想・計画等」の論点について議論を深め、九州の東の玄関口として拠点化に向け、取組の方向性を整理した。</p> <p>○全日本海員組合九州関門地方支部知事要望(H25.4)</p> <p>・フェリーは、海上の公共交通機関としての重要な役割と大規模災害時におけるライフラインを担っていることを再認識し、事業継続に必要な経費等の具体的な支援策を講じていただきたい。</p>
--	--

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国との連携をとりながら、広域道路交通網の整備推進を図る。</li> <li>・大分ー成田線等を利用する新規旅行者需要の掘り起こしに向け、航空会社や他の交通事業者等と連携して県内への誘客に取り組むとともに、航空会社に対して新規路線の開設や増便を働きかけることにより航空路線の拡充を図る。</li> <li>・LCCティーウェイ航空の継続的な運航に向けて、旅行会社に対する支援を行うとともに、大分ーソウル線の利用促進に関する県民向け広報等に引き続き取り組む。</li> <li>・フェリー事業者が連携して行う本県への誘客につながる新たな取り組みに対する支援に取り組む。</li> </ul>